医学教育分野別評価　大阪大学医学部医学科　年次報告書

２０２２年度

医学教育分野別評価の受審　2020（令和 2）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.34

はじめに

本学医学部医学科は、2020 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2021 年 6 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.34 を踏まえ、2022 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2020 年 9 月 23 日～2022 年 3 月 31 日を対象としている。

新型コロナウイルス感染症の猛威により、改善のための取り組みに従事する時間は少なかったが、2020 年度受審で指摘された問題点の中で特に重要と思われる臨床実習、学生の評価、教員の能力開発を中心に改善のための取り組みに従事した。くわえて、本学独自の先端的取り組みである研究者育成支援の見直し、系統的な感染症教育の構築を行った。

２　教育プログラム

改善した項目

２．教育プログラム	**2.2 科学的方法**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
なし	
改善状況	
Q2.2.1 カリキュラムに大学独自の、あるいは先端的な研究の要素を含むべきである。 大阪大学医学部ではカリキュラムにおける医学研究推進の取り組みとして、必修科目の 1 年次「医学序説」、3 年次「基礎医学講座配属」、5 年次「研究室配属」、6 年次「臨床医学特論」に加え、選択制の「MD 研究者育成プログラム」を全国に先駆けて設置し、カリキュラムに最先端医学研究的内容を含めている。そのような中、継続的改良の方針に則り、「MD 研究者育成プログラム」について IR 部門である医学教育調査室において現状の解析を行った。 医学部定員の研究医枠申請における 2021 年度文科省ヒアリング（2021 年 6 月 28 日開催）にて、本「MD 研究者育成プログラム」の成果として、学会及び論文発表など研究業績の蓄積、プログラム修了者から一定数の基礎医学系大学院進学などから、本プログラムの目標が達成されていることが確認された（資料 2.2-1）。一方、プログラム在籍者及び新規参加者は近年減少傾向を認め、何らかの改善方略の必要性が指摘された。	

そこで、2021 年度第 1 回プログラム評価委員会（2021 年 7 月 27 日開催）においてプログラム改善に向けた評価を行ったところ様々な意見が出され、プログラム見直しのための提言が行われた（資料 2.2-2）。これを受けて、2021 年度第 1 回カリキュラム委員会（2021 年 7 月 29 日開催）にて討議の結果、プログラム改善に向けたワーキング・グループ設置が指示された（資料 2.2-3）。指示をうけてワーキング・グループを立ち上げ、討議を重ねて、研究者養成のための新しい MD 研究者育成プログラム案が作成された。本プログラム案は 2021 年度第 3 回カリキュラム委員会（2021 年 12 月 15 日開催）に提出され審議の結果、研究者育成支援のための新しい方針が定められ、ワーキング・グループおよびカリキュラム委員会の連名により、研究参加に対する柔軟性を付与した新しい研究者育成支援プログラムが制定された（資料 2.2-4,2.2-5,2.2-6）。
今後の計画
2021 年度に制定された新しい研究者育成支援プログラムを 2022 年度入学生より適用し、引き続き最先端の医学研究内容を踏まえた医学教育及び研究者育成を推進するとともに、このプログラムの導入効果の指標としてプログラム参加者数を経時的にモニタする。
改善状況を示す根拠資料
資料 2.2-1　2021 年度文科省ヒアリング研究医枠 資料 2.2-2　2021 年度第 1 回プログラム評価委員会議事要旨 資料 2.2-3　2021 年度第 1 回カリキュラム委員会議事要旨 資料 2.2-4　2021 年度第 3 回カリキュラム委員会資料 資料 2.2-5　2021 年度第 3 回カリキュラム委員会議事要旨 資料 2.2-6　大阪大学医学部医学科における研究者育成支援

改善した項目

２．教育プログラム	**2.5 臨床医学と技能**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
１）卒業後に適切な医療的責務を果たせるようになるために、臨床実習での経験を確保するカリキュラムを実践すべきである。 ２）臨床実習に関して、重要な診療科で学修するための十分な時間を、全員に確保すべきである。 ３）学生がチームの一員として、責任をもって診療に参加できる実習を充実させるべきである。 ４）診療参加型臨床実習をさらに推進するために、学生に対して病院教職員と同等の医療安全や感染制御の研修を検討すべきである。	
改善状況	
１）学生は臨床実習における経験をクリニカルクラークシップノートの臨床実習到達目標チェックシートに記入することになっている（資料 2.5-01）。2022 年 3 月卒業生から提出された同チェックシートを集計して、卒業生が経験した到達目標を 2021 年度第 2 回クリニカル・クラークシップ委員会（2022 年 3 月 29 日開催）で確認した（資料 2.5-02,2.5-03）。	

２）重要な診療科の一部である総合診療科、産科婦人科、小児科、精神科は2020年度に実習期間を拡張した。これら診療科に過度な負担が生じていないか、2020年度第2回および2021年度第2回クリニカル・クラークシップ委員会（2021年3月30日および2022年3月29日開催）で確認された（資料2.5-03，2.5-04）。 ３）診療参加型臨床実習を促進させるための学生を対象とした取り組みとして、授業4年次「臨床導入実習」においてクリニカルクラークシップノートに基づいた診療参加型臨床実習の具体的な解説を行った（2021年12月17日開催）（資料2.5-05，2.5-06）。 診療参加型臨床実習を促進させるための教員を対象とした取り組みとして、2021年度第2回クリニカル・クラークシップ委員会（2022年3月29日開催）において診療参加型臨床実習の在り方を確認した（資料2.5-03）。 その他、臨床系教員に限らず新人教員を対象とした2022年2月24日開催の教員研修プログラムにおいて、診療参加型臨床実習の概要を説明した（資料2.5-07）。 ４）感染制御の研修として、4年次臨床導入実習に附属病院感染制御部による「感染症学」の授業を加えた（資料2.5-05）。
今後の計画
１）卒業前に学生から提出される臨床実習到達目標チェックシートの集計を引き続き行い、クリニカル・クラークシップ委員会で確認する予定である。 ２）総合診療科、産科婦人科、小児科、精神科は実習期間を拡張したことで過度な負担が生じていないか、安定して稼働しているか、引き続きクリニカル・クラークシップ委員会で確認する予定である。実習期間を拡張したことで期待通りの教育成果が得られているか、臨床実習到達目標チェックシートより確認する予定である。 ３）診療参加型臨床実習を促進させるため、引き続き学生および教員への説明の機会を定期的に設ける予定である。学生の診療参加状況を、評価表および学生アンケートより評価する予定である。 ４）感染制御の研修を引き続き4年次臨床導入実習で行う予定である。
改善状況を示す根拠資料
資料2.5-01　2021年度クリニカルクラークシップノート、臨床実習到達目標チェックシート 資料2.5-02　2021年度第2回クリニカル・クラークシップ委員会資料 資料2.5-03　2021年度第2回クリニカル・クラークシップ委員会議事要旨 資料2.5-04　2020年度第2回クリニカル・クラークシップ委員会議事要旨 資料2.5-05　2021年度4年次臨床導入実習 資料2.5-06　クリニカルクラークシップノート、クリニカル・クラークシップの概要と注意事項 資料2.5-07　教員研修プログラム計画書（2022年2月24日開催）

改善した項目

２．教育プログラム	**2.5 臨床医学と技能**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	

なし
改善状況
（Q 2.5.2）現在および、将来において社会や医療制度上必要となること 2020 年より続く COVID-19 への対応を受けて、2021 年度第 2 回プログラム評価委員会においてメール審議が行われ、「医学科における感染症教育について、系統的な教育課程を組み、医学科カリキュラムへ反映させるべきである」との討議結果となり、カリキュラム委員会に改善の指示が出された（資料 2.5-08）。2021 年度第 2 回カリキュラム委員会のメール審議にて改善のためのワーキング立ち上げが命じられた（資料 2.5-09）。ワーキングにて検討の結果、6 年間の医学教育全体の構成として各学年で学生理解度に合わせた適切な感染症教育を提供する、忽那賢志教授（感染制御学）が全体を通したコーディネートの役割を果たす、などを骨子とする新しい感染症教育プログラムが 2021 年度第 4 回カリキュラム委員会（2022 年 2 月 16 日開催）にて提出され、審議の結果、了承された（資料 2.5-10, 2.5-11）。
今後の計画
改善状況を示す根拠資料
資料 2.5-08　2021 年度第 2 回プログラム評価委員会メール審議録 資料 2.5-09　2021 年度第 2 回カリキュラム委員会メール審議録 資料 2.5-10　2021 年度第 4 回カリキュラム委員会資料 資料 2.5-11　2021 年度第 4 回カリキュラム委員会議事要旨

３　学生の評価

改善した項目

３．学生の評価	**3.2 評価と学修との関連**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
教育の各段階において、目標とする学修成果を学生が確実に達成していることを評価すべきである。	
改善状況	
・学生は臨床実習における経験をクリニカルクラークシップノートの臨床実習到達目標チェックシートに記入することになっている（資料 2.5-01）。2022 年 3 月卒業生から提出された同チェックシートを集計して、卒業生が経験した到達目標を 2021 年度第 2 回クリニカル・クラークシップ委員会（2022 年 3 月 29 日開催）で確認した（資料 2.5-02,2.5-03）。	
今後の計画	
・臨床実習到達目標チェックシートの集計は卒業時のみならず臨床実習中にも行い、学生が段階的に経験を深めていることを確認する予定である。 ・5 年次研究室配属において、学修成果に対応した新しい評価基準を導入する予定である。	
改善状況を示す根拠資料	

資料 2.5-01　2021 年度クリニカルクラークシップノート、臨床実習到達目標チェックシート 資料 2.5-02　2021 年度第 2 回クリニカル・クラークシップ委員会資料 資料 2.5-03　2021 年度第 2 回クリニカル・クラークシップ委員会議事要旨

５　教員

改善した項目

５．教員	**5.2 教員の活動と能力開発**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
・教員の教育能力を向上させるために FD などを積極的に開催するとともに、多くの教員の参加を促すべきである。 ・個々の教員に対して、カリキュラム全体を十分に理解するよう促すべきである。	
改善状況	
・若手教員を対象として、医学部の使命およびカリキュラム、医学教育のトピックスや問題作成方法などを解説する FD を 2022 年 2 月 24 日実施し、4 名の教員が参加した（資料 2.5-07,5.2-1,5.2-2）。 ・コロナ禍で ICT による変革が求められた医学部講義を振り返る FD を 2022 年 3 月 10 日実施した（資料 5.2-3,5.2-4）。ICT を用いた能動的な学修方法で授業を実施している教育事例の紹介や、2021 年度から医学部講義で導入したハイブリッド形式講義に対する教員側、学生側の意見について紹介した。ハイブリッド開催により、49 名の教員が参加した（資料 5.2-5）	
今後の計画	
・若手教員および教員全体を対象とした FD を今後も継続するとともに、ベテラン教員を対象とした学び直しとして、最近の医学教育トピックスを扱う FD を開催する予定である。 ・医学教育分野別認証評価の受審により医学教育改革のための PDCA サイクルが確実に回るようになった。改革した内容は関連する教員への周知が重要であり、教員を対象とした FD を適宜開催する予定である。 ・教室への案内、参加の徹底を行い、出席率を高めるような活動を行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 2.5-07　教員研修プログラム計画書（2022 年 2 月 24 日開催） 資料 5.2-1　教員研修資料（2022 年 2 月 24 日開催） 資料 5.2-2　教員研修参加者名簿（2022 年 2 月 24 日開催） 資料 5.2-3　教員研修プログラム計画書（2022 年 3 月 10 日開催） 資料 5.2-4　教員研修プログラム資料（2022 年 3 月 10 日開催） 資料 5.2-5　教員研修参加者名簿（2022 年 3 月 10 日開催）	

９　継続的改良

改善した項目

９．継続的改良	
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
·使命に基づき 2019 年度に策定した学修成果に学生が確実に到達できるように、教育プログラムの実施・モニタ・評価の体制を活用して医学教育の充実を図り、継続的な改良を進めるべきである。	
改善状況	
・2021 年度第 1 回プログラム評価委員会において、MD 研究者育成プログラムの見直しが行われたところ様々な意見が出され､MD 研究者育成プログラムの見直しのための提言が行われた。これを受けて 2021 年度第 1 回カリキュラム委員会が開催され、討議の結果、MD 研究者育成プログラムの見直しワーキング立ち上げが命じられた。ワーキングにて検討の結果、研究者養成のための新しいプログラムがカリキュラム委員会に提出され、2021 年度第 3 回カリキュラム委員会にて審議の結果､研究者育成支援のための新しい方針が定められた (資料 2.2-6)。 ・2021 年度第 2 回プログラム評価委員会において、医学科における系統的感染症教育についてメール審議が行われ、「医学科における感染症教育について、系統的な教育課程を組み、医学科カリキュラムへ反映させるべきである」との討議結果となり、カリキュラム委員会に改善の指示が出された。2021 年度第 2 回カリキュラム委員会にて改善のためのワーキング立ち上げが命じられ、ワーキングにて検討の結果、全学年において理解度に応じた感染症教育が専任コーディネータの調整の元に提供される新しい感染症教育プログラムがカリキュラム委員会に提出された。2021 年度第 4 回カリキュラム委員会にて提出された新プログラムを審議し、了承された（資料 2.5-11）。	
今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	
資料 2.2-6　大阪大学医学部医学科における研究者育成支援 資料 2.5-11　2021 年度第 4 回カリキュラム委員会議事要旨	